

## 1-1-1 国指定・国分寺大イチョウ

〈国指定〉昭和 28 年 3 月 31 日

〈所有者〉国分寺

〈所在地〉総和町 1 丁目 83 番地

〈樹齢〉推定 1,200 年

〈員数〉1 本

イチョウ (1 本) 目通り約 10m、高さ約 37m

飛騨国分寺の本堂と鐘楼門との間に位置し、樹齢およそ 1,200 年の雄株で、枝葉密生し、樹間の所々に乳を垂れ、樹勢は盛んである。

由来については往昔行基菩薩の手植と伝えられる。俗に乳イチョウの名がある。乳の出ない母親にこの樹膚を削り与える時は乳がよく出る、といわれている。根元に石像が祀ってある。

昔から、国分寺のイチョウの葉が落ちれば雪が降る、とも言い慣らされている。

### 参考文献

『高山の文化財』218～219 頁 高山市教育委員会発行 平成 6 年